

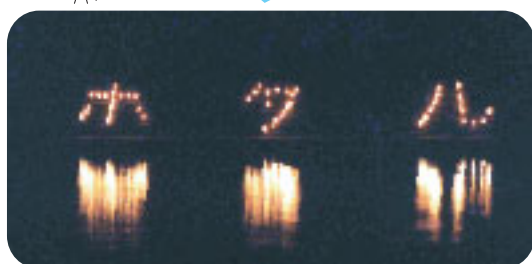


多くのホタルに満足して船を降りる乗船客



胸を躍らせながら乗船の時を待ちます

ホタル舟 フォトレポート



竹灯籠でホタルの文字が映し出された



ライトを灯されたアーチは乗船客に好評でした



スタッフによる竹灯籠作り



車のライトが入らないように気を配ります



竹のアーチ作り



福留平さん

川下り音頭ができた

北九州市在住の福留平さんが、ホタル舟運航にちなんで「サツマ鶴田川下り音頭」を作り、本町にお寄せいただきましたので、歌を紹介いたします。

サツマ 鶴田 川下り音頭

一ハアーサツマ鶴田の名物は
キラキラ光るホタルよ
コッチの水はアマイよ
ドント飛び出せ飛んで来い
ドント飛び出せ飛んで来い
二ハアー今宵主さんと川下り
仕事のつかれもどこへやら
飲んで歌ってテレビーシで
川のサカナも音頭とる
歌うー船頭さんのえびす顔
三ハアー上は自慢の鶴田ダム
下はミヤンジョートドロの滝よ
一度はおいで川下り
川のホタルも舞い遊ぶ
光るホタルの舞い扇



第3回 奥薩摩のホタル舟運航

第3回奥薩摩のホタル舟（奥薩摩のホタルを守る会主催）が5月13日（金）から30日（日）まで運航されました。

今年は、前半雨が多く、運航日は少なくなりましたが、約2500人がホタルのイルミネーションを楽しみました。

このホタル舟は、「奥薩摩・水と緑の郷づくり」の一環として実施され、龍舟祭等で利用されるドラゴンボートを2艘ずつ固定した舟とホタル舟専用船3艘の合計10艘でホタルが乱舞する「ホタル大橋」下流から約2km川を下ります。

乗船客は、午後7時30分にあびる館をシャトルバスで出発し、ホタル大橋付近の乗船口に移動します。午後8時前になりあたりが薄暗くなるとホタルが光り始めます。乗船客は舟に乗る前から、ホタルの多さに驚いていました。

実際舟に乗ると川の両岸に無数のホタルの光が見られ、約40分の運航を終えて舟から降りてくる人たちは一様に「大変感動しました。」「あまりの数の多さに驚きました。」「と口をそろえて話していました。

また、今回も約150人のスタッフがボランティアとして、約1ヶ月前から、道具作成、安全に運航するための棹差しの練習などを行いイベントを運営しました。

乗船客から「ありがとうございます。と声をかけられると毎日出て苦になりません。」「とスタッフも話していました。

この貴重な川内川のホタル資源は、本町の誇りであり、いつまでも守っていききたいものです。

鶴田町のホタルが本で紹介写真家の宮嶋康彦さんの著書「蛍を見に行く 蛍の名所ベスト28」（文藝春秋刊）



本町の写真が表紙にも使われています。